

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第1日目★】

2024年08月22日(木)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＞



毎年夏に行われる『カンボジア体験ボランティア』。

今年は8/18（日）～8/26（月）までの約8日間で開催しています。

2024年8月カンボジア体験ボランティア隊のメンバー、高校生3名・大学生16名・社会人5名の総勢24名が、ついにカンボジアへと旅立ちました。

今年は、8/18（日）～8/25（日）（帰国26日）までの約8日間にかけて、

「できることから始めよう！」をモットーに、現地学校でのスチール製ブランコの建設、
現地の子どもたちとの交流、そして新たな試みとして、手洗いの大切さを子ども達に伝える劇の披露や、
CCH*の子ども達と一緒に廃材でつくるランタンの創作活動など、
参加者が主体的に活動できる盛りだくさんのプログラムとなっています☆彡

そんな熱いカンボジアボランティア隊の活動の様子を、メンバーたちの生の声と共に、
随時発信していきます！

*CCH（The Center for Children's Happiness）：「幸せの子どもの家」

JHPが2002年にカンボジアで創設した児童養護施設で私立の小学校も併設しています。

その他、職業訓練や週1回アートに触れる「アートクラブ」も実施しています。

第1日目：成田空港から出国・カンボジア入国✈

◇◆参加者の感想◇◆

『小3以来の海外で、しかも慣れないメンバーの中カンボジアに行くのは本当に心配でした。

しかし、みんな本当に優しく、年齢の壁を超えてたくさんの人と話すことができ、とても楽しかったです。
これから約一週間みんなと過ごせることをすごく嬉しく思います！

カンボジアに着くと、何もかもが新鮮でした。テレビの中の世界でしかなかったトゥクトゥクや、交通ルールなど、実際に見ることができて良かったです。』（大学生）

『大学1年の時に参加させて頂いてから15年が経ちました。社会人になり、身の回りの環境がかわるなかで、どう感じるのか、当時感じた気持ちとも向き合いながら明日以降楽しみたいと思います。』（社会人：浜部さん）



写真) カンボジア・プノンペンの空港にて集合写真
カンボジアの東南アジア独特の空気を肌で感じワクワクした、という感想が多かったです！

第2日目以降の活動レポートもお楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第2日目★】

2024年08月23日(金)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＞



いよいよスタートした、8日間のカンボジア体験ボランティア。
第2日目のテーマは『カンボジアの歴史と今を学ぶ』。

気になる第2日目（8/19）のメンバーたちの感想を中心に、活動レポートをお届けします！

第2日目の主なスケジュール

- トゥールスレン虐殺博物館見学
- オリエンテーション（PP事務所スタッフによるカンボジア教育課題と活動事業の説明）



写真）元々は学校でしたが、ポルポト政権時代に強制収容所となったトゥールスレン

『今日は、朝からトゥールスレンへ見学に行きました。
とても衝撃的な内容でしたが、現実と向き合って貴重な時間を過ごすことができました。
残虐なことがあったという事実を知る機会が無かったので無知なことほど怖いものはないなと思いました。
過去を知ることは、自分の視野を広げることであり、もっと社会に対して歩み寄れると思います。なにが
恐ろしいかというと、同じ人間が人間を動物以下の扱いをしているという事実です。同じ人間がする事では
ないと思います。写真やsnsで見る事とは異なり、自分の足で学ぶということは自分にとっても忘れられない
学びになったと思います。』

（大学生：橘田さん）

『トゥールスレンを訪問してみて、覚悟はしていたけれどやっぱりとてもショッキングで、
なんでこんなに酷いことを同じ人間にするのか、本当に理解ができませんでした。
思わず目を背けたくなるようなことが沢山ありましたが、この体験はきっと今後自分の糧になって行くと思
うので、忘れないようにしたいと思います。』



参加者感想より）「みんなで囲んでご飯を食べるのがやっぱり楽しくてそれが1日の楽しみでした！」

夜ご飯はシーフードのおかずが特に美味しくてお気に入りでした！明日のご飯も楽しみです！

途中物乞いをしてくる子どもがいて、どうにかしてあげたいのに何もできないことが辛かったです。こういう貧困をなくすために、なにか事業を起こせたらいいのになぁと考えていました。

いざホテルに入ってみて、エアコンが全然効かなかったり、お風呂のお水はチョロチョロだったり、日本のホテルだと当たり前のことがカンボジア全然当たり前ではないんだなとすごく実感しました。』（大学生：大木さん）

『カンボジアに来て印象的だったのが、道路でバイクも車も人もルールに構わず進んでいくことや、トゥールスレンの衝撃的な歴史、お金を欲しがる子どもの姿の3つです。

特にトゥールスレンでは、写真や足枷を通じて非人道的な時代を知ることができ、また今自分が安全に生きることができていることへの感謝が募りました。

さらにカンボジアの子どもの就学率や教育の質に問題意識を持ったので、日本にいる私が何ができるのか考えながら、ブランコの建設や交流会に臨みたいと思います。』

（大学生：成澤さん）



写真）プノンペン事務所 現地駐在員からのカンボジアの教育課題と事業紹介の話に真剣に耳を傾けるメンバーたち。実際に現地に訪れてみることで感じることや学びが多くあったようです。

第3日目からは、いよいよブランコ建設がはじまります！お楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第3日目★】

2024年08月23日(金)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＜



第3日目は、いよいよ小学校へ訪問し、JHPのカンボジアボランティアプログラムでは恒例である、スチール製ブランコを学校の校庭に設置する作業がスタート！

暑い中での作業ですが、出迎えてくれた学校の子ども達から、メンバー達は沢山のパワーをもらっています。

気になる3日目のレポートをお届けします☆彡

第3日目の主なスケジュール：スキア小学校ブランコ設置作業

今日の作業では、ブランコ設置のための穴掘りやセメントづくり、ブランコの椅子のペンキ塗装などを一から行いました。



写真) ブランコを設置するための穴掘りとセメントづくり

まずは、穴掘りをする8カ所をそれぞれのチームに分けて開始し、50cmの深さを50cm×40cmの枠で掘ります。その後、掘った穴にガラを敷き詰めて20cmの底上げをし、ブランコの水平をとって穴をセメントで埋める作業を行いました。

メンバーの大半が、普段なかなか経験しないセメント作り等、初めての経験ばかりでしたが、お互いに声を掛け合いながら、協力して作業を進めることができました。



写真) セメントを埋めていきます

作業の合間合間に休み時間の子供達と交流しながら、昼食は関東給食会様より寄贈いただいた、ビーフシチューをいただきました。ご寄贈ありがとうございました！



参加者感想より)「お昼のビーフシチューは本当に美味しくて幸せすぎでした！
空き時間に学校の子供達と触れ合ってめちゃくちゃ楽しかった！
言葉が通じなくても、目を見てこんなにも意思疎通ができるんだなとびっくりしました！」

ブランコ設置までは予定通り終わりましたが、午後からスコールで雨が降ったため、ブランコの椅子の塗装の2度塗り作業のみ、明日に持ち越しです。



写真左) ブランコの椅子ペンキ塗り作業

写真右) 休憩時間に子どもたちがくれたお花と一緒に髪飾りや耳飾りをして交流しました！

『今日は初めてのブランコ設置作業だった。1から全て作り上げたのは初めてで凄くいい経験になった。大変だったがこれが子ども達の笑顔に繋がると思うととても頑張れた。
また休憩時に子どもたちがお花をくれたり話しかけてくれたりして嬉しかったし可愛かった。
明日も頑張りたいと思った。』 (大学生：土嶋さん)

『現地の子供達との交流を通じて純粋な感情で可愛い、嬉しいと感じました。
貧富の差によって対面で関わるのがなくとも貧しいなどの印象をもってしまう部分もあると思います。しかし、対面で交流する中ではその差を差別的に考えることはありませんでした。
対面で接することで親近感が湧く点からも、こうした経験をできる機会を増やし、多くの人が実際に対面で接すれば、偏見や差別の少ない社会を実現することにつながるのではないかと感じました。明日は交流会でより現地の方との関わる時間が増えるので、対面でしか得られないものを吸収していきたいです。』 (大学生：奥村さん)

明日は、ブランコ完成までの最終工程作業と、子どもたちとの交流会、そして衛生教育のための劇発表があります！

第4日目の活動レポートもお楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第4日目★】

2024年08月26日(月)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＞



早くも8日間の体験ボランティアも、折り返しの4日目！
前日からの作業もいよいよ集大成を迎え、
皆で協力し完成させたブランコを無事に贈呈することができました！



その後の子ども達との交流の時間には、メンバーが事前に準備した「衛生ワークショップの劇」や交流会を通して、沢山の笑顔が溢れる時間となりました☆彡

第4日目のレポートをお届けします！

主なスケジュール：
スキア小学校ブランコ設置作業（2日目）
衛生ワークショップ（劇）、子ども達との交流会

今日は最終工程も無事に終わり、ブランコが完成！
近隣の長老一同も集まり、ブランコ贈呈式を行いました。



写真) ブランコ完成に向け最後の仕上げペンキ塗り



写真) 完成したブランコを小学校に贈呈しました！

ペンキが乾くのを待つ間、急遽、カンボジアの近隣の民家を見学させてもらえることに。

1 階には豚やアヒルの家畜を飼っている5人家族のご自宅を見学し、生活する部屋が1つで家族みんなが楽しく、支え合っている姿が垣間見ることができました。

有志メンバーで行った衛生ワークショップの劇も子どもたちに、大好評でした。



写真) 衛生ワークショップとして、紙芝居形式でのレクチャーと劇の披露、その後、手洗いの実践を行いました！

『最後の学校での活動で、逆ホームシックになってしまいそうなくらい楽しい2日間でした。

まず、ブランコを完成させる作業はペンキ塗りや設置作業など健康第一でできたのが良かったです。また、衛生教育係の発表では、目標だった大きな声ではっきり話すことができました。

今までの準備を含め大変なこともありましたが、本当にやって良かったと思います。』

(大学生)

『ブランコが無事完成して、みんなの頑張りが形になって本当に嬉しかった。

民家を訪問してみて、その家の人は自分の暮らしは厳しくはないと言っていたのを聞いて、

必ずしも自分たちのレンズでみたら貧しく見える人でも本人たちはそう感じているとは限らない、ということを学んだ。自分の価値観が少し変わる体験ができて本当に良かった。

衛生ワークショップでは思いもよらないところで子どもたちが笑っていたり、みんなちゃんと整列して先生の話を聞いていたり、返事をしていたり、とても無邪気でかわいかった。』

（大学生：大木さん）



写真) 交流会では、日本文化として「折り紙」「大縄跳び」で遊んだり、日本から持参した浴衣を着る体験をしてもらいました

『今回のメインイベントのブランコを完成することができて良かったです。今日一番楽しかったことは交流の時間です。私はビーチバレーとゴムのレインボールームをしました。レインボールームをしていた際に想像以上の子ども達に来ていて、うまくやり方を伝えるのが大変でしたが、子ども達自身が考えて作り出したり、人がやっているのを見て真似して作っている姿を見て、子ども達に芸術や作る楽しさを少しでも感じてもらえてたら嬉しいなと感じました。』（大学生：清水さん）



写真左) カラフルなゴムのレインボールーム*で遊びました！

写真右) 日本語レクチャーの時間も持ちました

*レインボールーム：さまざまな色の輪ゴムをはめ込み、専用のフックを使用して輪ゴムを編み込んでいくことによって、自由な発想でオリジナルのプレスレット、モチーフや立体的な作品を制作できます。

第5日目は、ブノンペンへ移動し、カンボジアの子どもたちが豊かな心を育むことができる芸術教育を目指して実施している、教科書改訂作業を見学します。

第5日目の活動レポートもお楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第5日目★】

2024年08月27日(火)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＜



第5日目のテーマは、『カンボジア芸術教育現場を知る』。

子どもたちの豊かな心を育むのに必要な、カンボジアの芸術教育をより充実化させていくための芸術教科書改訂作業を見学する貴重な体験をしました。

気になるメンバー達の活動の様子をお届けします！☆彡

主なスケジュール：芸術教科書改訂作業の見学

カンボジアの教育現場では、主要教科優先のカリキュラムで芸術教育が後回しになっている現状があります。カンボジアの小学校では、1年に35コマしか芸術の授業がありません。

メンバーは、スワイリエン州から約3時間かけて車でプノンペンへと移動し、芸術教科（音楽・美術）の未来を変える、教科書改訂作業を見学しました。

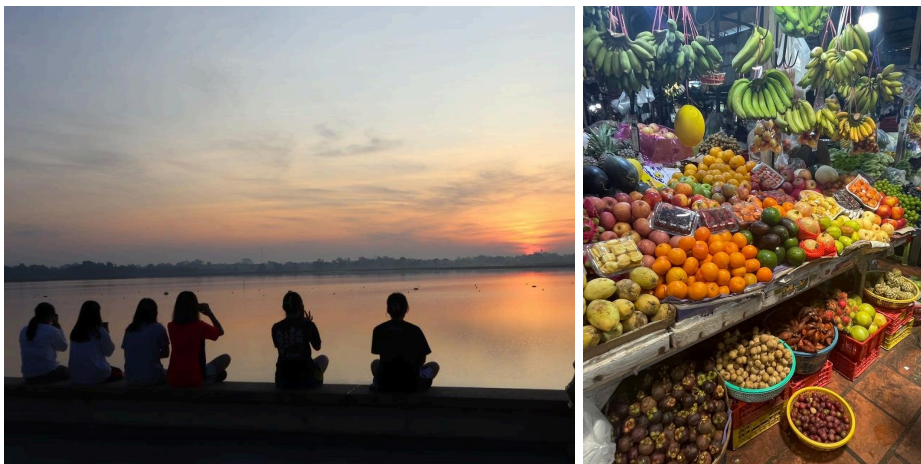


写真）カンボジア教育省へ訪問、教科書改訂のための会議を見学させていただきました
カンボジアの伝統楽器も体験させてもらったメンバーたち

『今日はバス移動も長時間で、ゆっくり休めたのが良かったです。
教科書改定の見学では、スタッフの方が隣に居てくださったこともあり、たくさん質問させていただけました。音楽の専門家と音楽少し分かる人、別教科の先生など様々な面から見れるように色んな人が議論して教科書を作っていること、年単位で教科書を作り上げていること、
本当に沢山のことを学びました。JHPがどれほど沢山関わっていて、多くの人のお陰でこのような活動が出来ていることも知りました。
明日はアート活動があるので、しっかり寝て、楽しみたいと思います。』（大学生）

『教科書の改訂作業を見学した。子ども達と実際に触れあうことが続いた昨日までとは打って変わり、地道でありながら、とても重要な作業を見学した。
子ども達に教える教師を対象とする教育機関や教師用教科書の必要性を深く実感し、現状を打開するために働く人々の真剣さに感化された。教科書改訂が全国に普及するのは数十年も先であったり、専門科目としていない先生が芸術科目を教えている、クラスで一台の鍵盤ハーモニカを使っているなど、カンボジアの描く理想と現実のギャップを特に感じた1日だった。』（大学生：牟田さん）

『今日の芸術教科書の改訂作業では、教科書が出来たから「はい！芸術教育の問題はクリア！」というわけではなく、芸術の教師達の育成（特に田舎の地域）や何度も重ねる推敲など、何十年単位で取り組む課題であること、そして内戦など戦争によって奪われる物の大きさ、どれほどの影響が戦後何十年、百年単位で続いていくかということを実感しました。
また、今日は活動が少なかったおかげで、色んな方との交流を深められとっても楽しい1日でした。』（高校生：堀井さん）



写真左）早朝散歩の時間には、きれいな朝焼けが見えました
写真右）合間の時間にマーケットでの買い物も楽しみました

第6日目は、待ちに待ったCCH小学校の子どもたちとのアート活動があります！
次回もお楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第6日目★】

2024年08月27日(火)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＞



カンボジア体験ボランティアも、あっという間に残りわずか。

第6日目は、公益財団法人 民際センター様に訪問させていただき、カンボジアの教育の現状をより深く学ぶことができました。

その後は、CCH*を訪問、子ども達とペットボトルの廃材を使ってアート作品を作り上げ、交流し、盛り沢山の1日となりました☆彡



*CCH (Center for Children's Happiness)

2002年にJHPが児童養護施設として創設後、独立し、現在は私立小学校となった。
JHPは毎週のアート活動や奨学金支援を行っている。

主なスケジュール：NGO民際センター様へ訪問、CCHアート活動

カンボジア体験ボランティアのプログラムでは、毎年他団体の国際NGOを訪問させていただいています。今年は、民際センター様にご協力をいただき、カンボジアの教育の現状や支援についてお話をいただきました。



『民際センターは、経済的に貧しく学校に通えない子どもたちに、教育支援により子どもたちに就学の夢をかなえる国際協力NGOです。

国が国を支援する「国際」支援ではなく、「民」と「民」とを結びつける国際貢献を、私たちは「民際」と呼びます。「民際力」による支援を広く日本に普及し、民の力により、教育支援を通じて、世界の貧困削減と平和構築を目指すことを活動目的としています。』

(民際センターHPより：民際センター 初めての方へ - (minsai.org))

『今日は民際センター（EDF）様への訪問とCCHでのアート活動を行いました。

EDFを訪問し、特に衝撃的だったことは、現在の学校では43名定員の教室に60人以上、時に80名が入っているということです。またドロップアウトが多いことも問題だと思いました。』

(大学生：成澤さん)

『今日はNGOの民際センター様を訪問し、カンボジアの教育の現状についてさまざまな話を聞くことができました。特に政治家や軍人や警察が、自分の知名度を上げるために、勝手な場所・期間に学校を建設するケースがあり、そのような間違った作り方によってひとクラスに60-80人生徒がいるということが起こっている、という話が印象的でした。』

(大学生：大木さん)

その後は、CCHへ移動し、子ども達とペットボトルの廃材で個性溢れるランタンを作ったり、屋外で思う存分、身体を動かし、交流をしました！



写真) 皆でランチのあとに、アート創作活動を行い、カラフルなランタンが出来上がりました！

『CCHでは、まずカンボジアの家庭料理をいただき、日本の食事に似ていてとても美味しかったです。CCHでのアート活動では、子どもたちの想像力あふれる独創的なランタンを目にして感動しました。日本のとカンボジアの国旗を描いてくれた子もいて、心が温かくなりました。

また子どもたちが話しかけてくれたり名前を聞いてくれたりしてすごく嬉しかったです。

帰り際には涙を堪えながら見送ってくれて、アートで子どもたちと繋がることができて本当によかったと思いました。』（大学生：成澤さん）

『午後のアート活動では、アート部として室内にいて子ども達と一緒に作りました。

生徒の人数や教室の広さなどわからないことだらけで不安でしたが、最後完成してライトアップした時にはその達成感と安心感で感動して少しうるっとしました。子ども達の作品もみんな想像力豊かで私たちの予想をはるかに超えるいい作品ができてよかったです。』

（大学生：佐々木さん）



写真）屋外交流では、子ども達からたくさんの元気パワーをもらいました！

いよいよ活動も終盤になりました。

第7日目の活動レポートも引き続き、お楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★第7日目★】

2024年08月30日(金)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＞



カンボジアでのボランティア活動も、残り2日となりました。

第7日目は、日本人の方が代表を務められている NGO Udon House様に訪問させていただき、カンボジアの衛生教育の現状や取り組みについて深く学ぶことができました。また、午後には、カンボジアの伝統文化を体験するワークショップにも参加しました。

参加者の生の声とともに、活動の様子をお届けします！

主なスケジュール：

NGO「Udon House」様訪問、カンボジア芸術鑑賞・体験

カンボジア体験ボランティアのプログラムでは、毎年他団体の国際NGOを訪問させていただいています。前日の続く2つ目の訪問先として、「Udon House」様にご協力をいただき、カンボジアの衛生教育の現状や支援についてお話をさせていただきました。



写真) Udon House様訪問

NGO Udon House*では、カンボジアの子どもたちの健康を守るため、母親や大人への衛生教育や栄養指導、救急措置などの指導活動を行っています。

代表 楠川さんは、看護師定年後にJICAシニア海外ボランティアとして、プノンペンの国立小児病院で4年半医療支援活動に従事された際、子どもたちの生存権や教育権が保護されておらず、衛生に関する教育もされていない状況に衝撃を受けたことをきっかけに、カンボジアへ移住、2015年に団体を設立されました。カンダール州カンダルスタン郡のすべての小学校32校に保健室を作り、現在も、保健情報提供や子ども達への健康の大切さを教え広められています。

*団体名称は、代表の楠川さんが「うどん県」と称される香川県出身であることや、活動を支えて下さっている地元香川県の方々とともに支援をしているという意味が込められています。

参考) HP「社会貢献支援財団」[NGO Udon House：第56回 社会貢献者表彰受賞者 \(fesco.or.jp\)](https://fesco.or.jp)

▼参加者感想▼

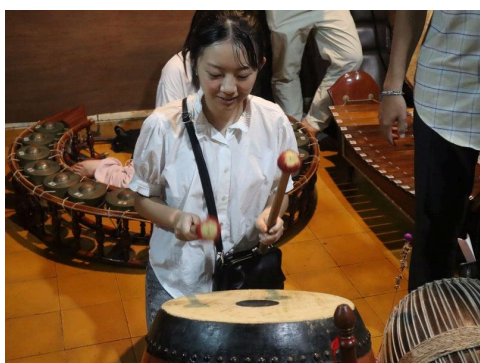
『うどんハウスの楠川さんの取り組みの中で現地の先生に教えてそれを子ども達に教えさせるという形をとっていることがいいなと思いました。その場限りではなくその後の継続につながる工夫がたくさんされていて楠川さんのカンボジアの子どもたちへの愛が伝わってきました。』

（大学生：高橋さん）

『今日は午前中にうどんハウスに行ってカンボジア歴19年の日本人の方に出会った。保健室を作ったり、医療を広めているすごい方だ。「頑張るじゃなくて楽しむ」というのはいい言葉だなと思った。定年後に国際支援活動を開始されたと聞き、私も定年後にそんな選択ができるような人生を送れたらと思う。』（大学生：坂根さん）



午後の時間は、カンボジアの文化体験をテーマに、Champrey Academyにて、カンボジア芸術鑑賞と体験をしました。



写真）カンボジア伝統舞踊のレクチャーと体験、伝統楽器の演奏体験、絵画デッサンも体験しました。

劇の鑑賞では「指の細かい動きや、表情などで言葉を発さない劇にストーリー性が感じられ、今までの人生で1番面白い劇だった」との感想もありました！

▼参加者感想▼

『カンボジアの芸術教育体験では、隣に座っていた男の子からきめ細かい指導を受けながら、アシンメトリーな振り付けを覚えて実践することがとても大変だった。しかし、実際にやってみると現地の歴史や雰囲気馴染めた気がして、言葉がいない芸術の素晴らしさに改めて気付かされた。』（大学生：志村さん）

『この日はカンボジアの伝統芸能を観た。初めて見る踊りだったが、手の動き1つ1つに意味があり、奥ゆかしく感じた。初めの方に一緒に少し体を動かしたが、手のひらを反らせたり、足も綺麗につま先まで伸ばしたりする美しく見せるための動作がとても難しかった。

その後、楽器や絵画などの芸術も体験した。見たことの無い楽器ばかりで、ドレミファソラシドと綺麗になるものがあまり無かったことに驚いた。

絵画ではデッサンを行ったが、小学校や中学校で習ったのとは違う描き方で、影を付けたり輪郭をはっきりさせるなどの手法も少し難しかった。たくさんの芸術に触れられてとても楽しかった。』（大学生：宮崎さん）

カンボジアならではの文化にふれ、新たなカンボジアの魅力を知ることができた1日でした！

明日は、早くも最終日を迎えます。活動レポートも最後までお楽しみに☆彡

カンボジア体験ボランティア2024【特集レポート★活動最終日★】

2024年08月30日(金)

テーマ：カンボジア体験ボランティア＞



いよいよ、活動最終日を迎えたカンボジア体験ボランティア！

最終日は、カンボジアのお土産を買いに、セントラルマーケットやモールへ。

そして、胡椒の栽培・販売を行う「KURATA PEPPER」にも訪問、創業者の倉田さんから直接カンボジアでの体験談を伺いました！

気になる最終日の活動レポートをお届けします☆彡

主なスケジュール：

セントラルマーケット等で買い物・クラタペッパー訪問、帰国✦

最終日となる今日は、お土産を買いにセントラルマーケットやイオンモールへ。

マーケットでは、人生初めての値切り交渉にチャレンジした人も。カンボジアでの思い出の1つになりました。



また、1997年より胡椒を自社農園で生産、販売されているクラタペッパー様*へ訪問。

創業者の倉田浩伸さん*ご自身のカンボジアでの体験談やJHPとの繋がりについてお話をいただきました。



* 倉田浩伸さん

1992年8月より、JHP・学校をつくる会の前身であるNGO「JIRAC」に参加し、カンボジアを訪れる。1994年にプノンペンで調査事務所を設立。

「世界一おいしい」と言われていたにも関わらず、内戦後消滅してしまったカンボジアの胡椒を復活させるため、1997年より自社農園で栽培を開始。カンボジアの胡椒栽培の産業を日本や世界各国に広めることを目的に、「KURATA PEPPER」をオープン、輸出版売を行っている。

▼参加者感想▼

『今日はクラタペッパーを訪れ、会社を作るに至った経緯についてのお話を聞いた。

私も社会起業家になりたいという思いがあったので、とても参考になりました。

特に、「一生懸命作ってもお金にならないものもある。だから誰も真似しない。でも喜んでくれる人がいて嬉しいからできる。」という言葉が印象的でした。

私も、日本の中にいるだけでは決してわからなかった、沢山の経験をさせてくれたカンボジアの人々に少しでも恩返しをする為に、彼らの役に立つ事業をいつか立ち上げたいです！！

怪我なく安全に、そして楽しく一週間を終えられたのは、スタッフさんや参加者のみんなのおかげです！この繋がりをこれからも大切にしたいなと思います。』

（大学生：大木さん）

『セントラルマーケットや、モールに行ってお土産を買った。

マーケットでは値引きをたくさんしてもらって、私が思う納得のいく値段で購入することができた。その後、倉田ペッパーまで行き、倉田さんのカンボジア支援のお話を聞いた。

今回のカンボジアボランティア体験でお話してくださった方に共通していたのは、カンボジアの人の助けになりたいと言うことだ。私も、形は違えど、人を助けられるような人生を送りたい。』（大学生：坂根さん）

『今日はセントラルマーケットにて初めて買い物で値切りをしてみました。日本だと遠慮してなかなかできないことなので、体験できて楽しかったし、うまくいくと嬉しかったです。

ついに今日が活動最終日となって、本当に充実した時間だったとしみじみとするのと同時に、

メンバーのみんなと会えなくなってしまうことがとても悲しくなりました。

ここまで仲良くなれるとは思っていなかったので、参加して本当に良かったと思いました。

この旅を通して、改めて人との出会い大切さを痛感しました。』

（大学生：浜本さん）

■全員が無事に帰国しました！

26日早朝には、2024年8月隊の24名全員が成田空港に到着、無事に帰国しました！

約8日間のカンボジア体験ボランティアを通じて、全員が普段経験することのできない、沢山の人生の学びがあったようです。

ぜひ今回の体験ボランティアでの実体験、そして「カンボジアの今」を多くの人に伝え、今後の糧にしていきたいと思います！

秋には、8月隊メンバーたちによる活動報告会*を行います。

今回での経験を活かし、それぞれの環境でさらに成長した姿で会えることを楽しみにしたいと思います。

*活動報告会には、どなたも参加できます。日程が決まりましたら、当会のHPやSNSでお知らせします。